



## この一年を振り返って

熱海市長 齊藤 栄

今年、熱海市にとって市役所新庁舎、新生熱海中学校、中央保育園などの懸案事業が完成した大きな節目の年でした。

特に市役所新庁舎の完成については市政の長年の課題であり、感慨深いものがあります。4月10日の竣工式では、かつてこの市庁舎敷地に三代將軍徳川家光により熱海御殿が、その後大正天皇の御用邸が建設された歴史などを記したパンフレットを配布しました。この土地に熱海発展の歴史が詰まっていることを、市民の皆さんにも広く知って欲しかったからです。

現在、市長室の窓から市役所旧庁舎の解体工事が見えます。熱海の歴史の節目を実感するとともに、戦後の熱海の発展を支えた市役所旧庁舎に「長い間本当にお疲れ様でした」と伝えたいです。

また、自分にとって今年、市長選挙の年でもありました。選挙と聞くと何かうさんくさいと感じる人がいるかもしれませんが、選挙は市民が為政者を選ぶことのできる民主主義の大切なプロセスです。一方で、政治家にとって選挙はできればやりたくないというのが本音ですが、選挙は政策を鍛える機会でもあります。市民に訴え、賛同や批判を受けて政策はさらに深化します。また、選挙は政治家を鍛えます。公開討論会などは正に真剣勝負。受け答えや立ち居振る舞いまでも厳しく評価され、政治家として成長する機会を得ます。

来年はどんな年になるでしょうか？自分、新生熱海をさらに前に進めていきます。良いお年をお迎えください！



## 「3期目を迎えて」

熱海市長 齊藤 栄

市長選挙の関係で、このコラムを書くのは8月以来になります。選挙期間中そして3期目を迎えて、強く感じたことが二つあります。

一つ目は市民の声を聴く大切さです。熱海駅前広場の整備は多くの皆様にご迷惑をかけ、たくさんのご批判をいただいています。その原因に、身体に不自由をお持ちの人の声が十分反映されていなかったことなどがあげられます。先日遅れ馳せながら、駅利用者の生の声を最も身近に聞いているタクシー運転手さんと共に駅前広場の現場検証を行い、お客さんの視点での不都合を詳細に把握しました。今後はこれを踏まえ、2年後の駅舎・駅ビルの完成に合わせて、必要な改善・改修を行ってまいります。

二つ目は私の政治信条を貫くことです。市民の声を聴くことは大切ですが、一方で行政が市民の全ての要望に応えられるわけではありません。財源などが限られる中で、何を最優先とすべきかを政治家として判断しなければなりません。大切なことは、自らが正しいと信じてることを着実に実行すること。そしてその場をうまく立ち回るのではなく、たとえ一時的に嫌われたとしても、最終的に市民全体の利益になることを選択することだと、私は考えます。

まず市民の声に耳を傾ける。そして正しいと信じてることを意思決定してゆく。このことを通して、皆様に約束した「新生熱海の実現」のため3期目も全力で頑張ります。



## この8年を振り返って

熱海市長 齊藤 栄

熱海市長に就任して、この9月で2期目の任期が終わります。8年間を振り返って感慨深いことの一つに新庁舎の完成があります。市政の長年の懸案だった市庁舎の建て替え問題でしたが、就任時点で決まっていた建設計画を白紙に戻し、新たな計画によってこの4月に完成しました。完成するまでの間は、「今大地震が起き、人命にかかわることがあったら市長はどう責任を取るのだ」と常に批判にさらされました。新庁舎での業務がスタートした夜は、「これで職員や来庁者の安全安心を確保できる。これまでの苦しみからやっと解放される」と市長就任以来、初めて枕を高くして眠ることができました。

感慨深いもう一つのこととは、子どもたちの成長です。先日、こがし祭りのお囃子の練習を見ていた際に、あるお母さんから「市長、覚えていますか？卒園式のビデオメッセージをお願いした息子が、今年中学一年生になりました」と声をかけられました。勇壮に太鼓をたたく彼は、この4月に開校した新生熱海中学校に通っており、「ビデオメッセージのことはしっかりと覚えていきます」と言ってくれました。自分が市長をしている年月で子どもたちはこんなに成長していたのです。

財政再建の我慢の5年間。「元気な経済」と「豊かな暮らし」に力を入れながら、3年前に「新生熱海」を掲げました。熱海市にとってこれからが、今後大きく発展できるかどうか大切な時です。

来月の本欄は、都合によりお休みさせていただきます。



## ジャカラランダの木陰を夢みて

熱海市長 齊藤 栄

去る6月6日に、平成24年からお宮緑地で整備を進めてきた「ジャカラランダ遊歩道」の完成式典を行いました。

「ジャカラランダ遊歩道」の整備にあたっては、梅園の梅、糸川のあたみ桜に続いて、熱海にゆかりのある篤志家の多大なご支援をいただいています。

2年前、姉妹都市であるポルトガル・カスカイス市を訪れ、桜並木に似た群生するジャカラランダの様子や街並みを肌で感じ、昨年6月に出席したジャカラランダサミットでは、長崎県雲仙市や宮崎県日南市などの先進市から、植栽や管理の方法などを学んできました。今後は、先進市から学んだことを生かしながら、ジャカラランダを「熱海三大花木」の一つとして、観光客、そして市民の皆様楽しんでいただけるよう、PRしていきたいと思っています。

これまで、熱海の海岸には夏の暑い時期に日陰がないと言われていました。私がカスカイスで見たようなジャカラランダの木陰が近い将来できると思います。その木陰の下で、多くの人々がのんびりと過ごす光景を見ることが私の夢です。「新生（リニューアル）熱海」のシンボルとしてジャカラランダを守り、大切に育てていきたいと思っています。



## 新生熱海中学校の開校

熱海市長 齊藤 栄

平成26年4月4日、熱海中学校と小嵐中学校が統合した「新生熱海中学校」が開校しました。それぞれの67年、61年という長い歴史に幕を下ろし、生徒が新たな気持ちで学生生活を送れるよう、制服・校歌・校章などを新しくしました。

現在2人体制の熱海中学校生徒会長と話をする機会がありました。2人とも大変しっかりしていて元気が良く、「仲間が増えてうれしい」「不安もあるが、両校の良いところを大切に、一期生として頑張りたい」という言葉を聴くことができました。今回の統合により同級生が増え、部活動を始めたさまざまな分野で、これまでできなかった多くの体験ができるようになると思います。

自分自身を振り返っても、中学校の3年間で、人生の中で体も心も最も成長する時期でした。中学校時代の夢や経験は、一生を通じての宝になります。皆さんが両校の伝統を受け継ぎつつ、新たな歴史を創っていくような、私も応援しています。



## 新庁舎竣工式

熱海市長 齊藤 栄

77回目の市制記念日にあたる4月10日、新庁舎の竣工式を執り行いました。当日は多くの来賓を迎え、すばらしい晴天にも恵まれ、幸先の良いスタートができました。自分にとっても市長就任以来8年越しの課題がようやく解決し、大変感慨深いものがありました。

私がこの日最も印象的だったのは、午後に行った市民内覧会に300人もの市民の皆さんに参加いただいたことです。内覧会は午後1時と2時に2回行いましたが、受付でお待ち時間の溢れんばかりの皆さんを見て、正直涙が出そうになりました。私も職員とともに新庁舎の説明を一部行いましたが、「広々していて、明るいわね」などの声が耳に入りうれしく感じ、また最新鋭の消防指令システムの説明には皆さん真剣に見入っていたのも印象的でした。新庁舎の完成は、市民の皆さんにあらためて市役所に関心をもつていただいた機会でした。

私は新庁舎の完成に際して強く思うところがあります。それは「庁舎は市民のものである」という点です。市職員は業務を行う場として庁舎を使わせていただいているに過ぎません。5月7日に新庁舎での業務が新たにスタートしますが、市民の皆さんをこれまで以上に温かくお迎えすると同時に、職員と市民の皆さんの力を合わせて、新しい熱海市役所を作って行きたいと考えます。

「市民との協働」、これは一朝一夕でできることではありませんが、新庁舎の完成を契機にさらに前に進めてまいりたいと思います。



## 新庁舎の完成

熱海市長 齊藤 栄

「新生(リニューアル)熱海」3年目となる平成26年度、待望の庁舎がいよいよ完成します。長年の懸案であった新庁舎の完成は、私自身大変感慨深いものがあります。

昭和25年の熱海大火によって旧市街地の約4分の1が焼失し、昭和28年5月に「復興のシンボル」として建設された旧庁舎は、60年間熱海市を見守ってきました。このたび完成した新庁舎は熱海第三の成長期に向けて「新生のシンボル」にしていきたいと考えています。

新庁舎の特徴は、大きく分けて3つあります。第一に、消防庁舎と合築した「安全・安心の拠点」として、国の1.5倍の耐震性を確保し、災害発生時にも庁舎の機能や役割を継続することが可能なことです。第二に、システム建築工法の採用などにより「建設コストの大幅な削減」ができたことです。旧文化会館の耐震化などを含めた総事業費は当初計画の約3分の2以下となり、新生熱海中学校の整備を同時期に行うことができました。第三に、庁舎を訪れた際、用事が1つの階で終えられるよう、窓口業務などを1階に集め、ワンフロアサービスを実現した「使い勝手の良さ」です。

新庁舎での業務は、消防は4月14日から、市役所は5月7日から開始いたします。「新生」のシンボルとして、市民の皆様にも愛される庁舎となるよう、努めていきたいと思えます。



長野で学んだこと

熱海市長 齊藤 栄

先日、障がい者支援の先進地である長野市を訪問しました。長野市の人口は約39万人、そのうち約6%の2万2000人が障がいを持っています。一方、熱海市は人口約3万9000人、障がいのある人は約2100人と、長野市の10分の1程度です。しかし、現在熱海市の障がい者支援施設は必ずしも十分とは言えず、一人ひとりのニーズに合った支援といった面でも、まだまだ課題があると考えています。

今回、長野市内にある「ながの障害者生活支援協会」をご紹介いただき、先進事例として多数の施設を視察しました。同協会は、カフェやレストランそしてクラフトショップなどを運営し、障がいのある人の働く環境づくりといった就労支援や、生活をサポートするグループホームの運営など、多岐にわたる支援を行っています。総括センター長の「街の中心地での障がいのない人との共存」が目指す方向であり、理想の姿だというお話が大変印象的でした。運営していく中で、他者とのあいだでトラブルが発生することも障がいのある人が社会の中で生きている証であると考えているそうです。

また、どの施設でもスタッフの皆さんが笑顔で明るく、元気な表情で働いており、その様子からは、やりがいとパワーが感じられました。今回、視察で学んだことを熱海の新たな福祉施策に生かし、障がい者支援の充実を図っていききたいと思います。





## 伊豆大島の復興

熱海市長 齊藤 栄

昨年の8月、休暇を利用した伊豆大島旅行で、島内を散策し地の物を味わい充実した時間を過ごしたことを広報あたま9月号で書きましたが、その2カ月後、台風26号により大島は甚大な被害を受けました。ニュースに流れる様子は夏に見た景色とはすっかり変わっており、大島の皆さんの不安な気持ちを感じるのと大変辛いものでした。

熱海市は以前より大島町と親密に交流をしていることから、10月30日から2日間、静岡県緊急消防援助隊第6次派遣隊として、消防本部救助部隊5人が大島で支援活動にあたり、また11月には私も大島へ渡りました。

被害から約3カ月が経過し、大島は現在、復興に向けて着実に動き始めています。1月11日の熱海梅園梅まつりオープンングでは、熱海・大島交歓会が行われ、大島から多数の関係者の皆さんにお越しいただきました。一方、大島では観光復興のスタートに位置づけられた「伊豆大島椿まつり」を3月23日まで開催しており、1月26日の開会式に私も出席いたしました。

11月と1月の大島訪問の際、市民の皆さんからお預かりした義援金などを大島町長にお届けしましたが、町長は市民の皆さんのご支援に対し大変感謝しており、熱海市民を代表した私は大変誇らしい気持ちでした。熱海市にとって目の前に見える伊豆大島は、大変身近な存在です。今後もできる限り応援していきたいと考えています。